

津ライスニュース 令和3年産第4報

令和3年8月13日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

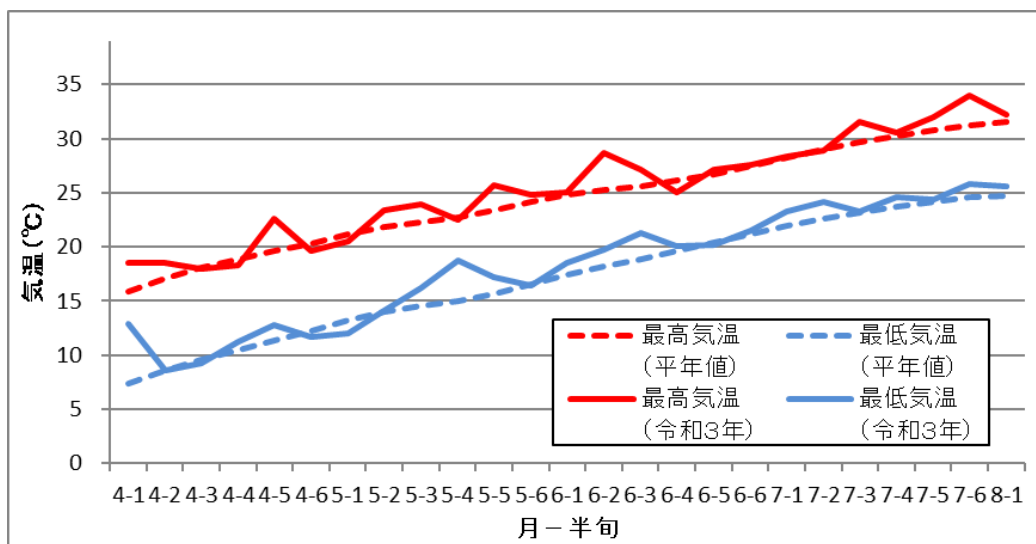
まもなく収穫期を迎えます。良質米生産のため、収穫前の適正な水管理と適期収穫を実施しましょう。

コシヒカリの出穂時期は平年より2日程度早く、出穂後の気温が高めに経過していることから、成熟期も平年よりやや早くなると思われます。収穫前の落水を早くし過ぎないように注意するとともに刈り遅れにならないよう、適期収穫を心がけましょう。

気象経過

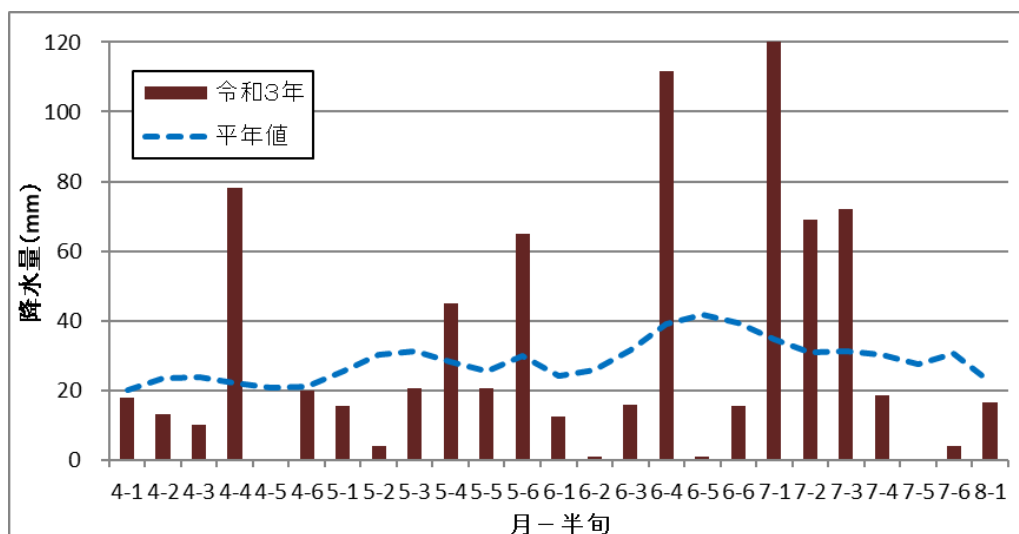
<気温>

4月第6半旬から5月第1半旬にかけてやや気温が低かったものの、以降は平年より高めに気温が経過しています。



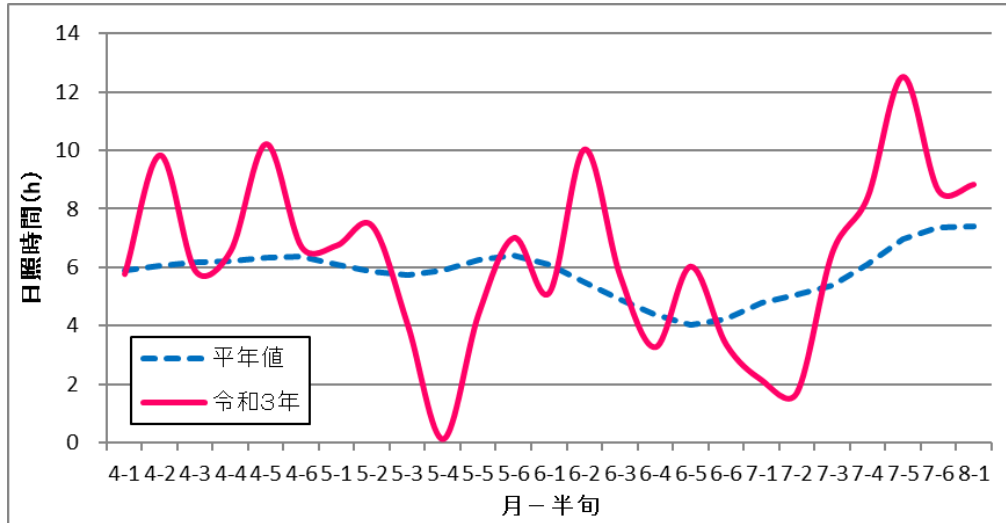
<降水量>

梅雨入り後の5月後半は降水量が多くなりましたが、6月前半は少なくなりました。6月第4半旬及び7月第1～第3半旬にまとまった量の雨が降りました。



<日照時間>

5月第3半旬から第5半旬にかけて曇りや雨の日が多く、日照が少なくなりました。
6月第6半旬から7月第2半旬も日照が少なくなりましたが、それ以外は平年並み～やや多く経過しています。



生育の概況

梅雨入り前後の5月中頃から5月後半にかけて曇りや雨の日が多く、日照が非常に少なかったことから、初期の生育が遅れました。5月末から6月中頃までの好天により生育の遅れを取り戻し、茎数が確保されました。コシヒカリの出穂期は4月中旬植えで7月15日前後、4月下旬植えで7月20日前後となり、平年より2日程度早い状況です。梅雨の期間が長く(2か月余り)、いもち病の出やすい天候が続いたことから、6月下旬から7月中旬にかけて葉いもちの発生が見られ、一部穂いもちに移行しています。また、斑点米カメムシ類の発生が多く、飛来性害虫のウンカも例年より早くから飛来しており、予察灯による誘殺数も多い状況です。

R03年産水稻生育基準田 調査データ
R03年産水稻(コシヒカリ)

調査場所	移植日	出穂期
殿村	4月15日	7月14日
安濃	4月25日	7月19日
白山	4月27日	7月19日

(参考)令和2年産水稻生育基準田
R02年産水稻(コシヒカリ)

調査場所	移植日	出穂期
殿村	4月18日	7月13日
安濃	4月25日	7月19日
白山	4月30日	7月23日

今後の栽培管理

<水管理>

- ・水稻の根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなります。水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります。出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を心掛け、根に適度な水分と酸素を供給しましょう。
- ・早期落水は下葉の枯れ上がりや倒伏を助長し、登熟不良による未熟粒の発生や胴割粒の発生の原因となります。落水は収穫作業に支障のでない程度にできるだけ遅らせましょう。

※台風時の水管理

台風時はイネの蒸散が盛んになり脱水症状が起こりやすくなります。台風情報などに注意し、早めに深水湛水を行いましょう。深水湛水はイネの激しい振動を防ぎ、物理的損傷の軽減も期待できます。また、台風通過後は吹き返しの風により、蒸散が活発となり茎葉の損傷を受けやすいので、数日間は湛水状態としましょう。

<斑点米カメムシ類対策>

出穂期になるとカメムシ類の本田への侵入が増加します。作期分散のために早生や晩生品種の導入が進んでおり、周囲より早く出穂したほ場や遅く出穂したほ場はカメムシ類が集まりやすく、特に被害を受けやすいので注意が必要です(ただし、使用回数や使用時期、特に収穫前日数に注意してください)。

<ウンカ類対策>

普通期栽培や中晩生品種で坪枯れ等の被害が心配されます。防除については、斑点米カメムシ類の防除を兼ねて実施しましょう。株元に薬剤がかかるよう、散布してください。上記のとおり、散布時期については、特に収穫前日数に注意してください。

<適期収穫>

- ・穂の基部に緑色粳数が3~4粒程度残る頃が収穫適期です。また、コシヒカリでは粳水分が26~28%の頃が収穫適期となります。
- ・早刈りは未熟粒(青米や充実不足)の増加、刈り遅れは茶米や胴割粒の増加となり、いずれも品質が低下します。品質向上のために適期収穫を励行しましょう。

○水稻生育予測

【令和3年8月5日現在】

品種	移植期	出穂期の予測日	成熟期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	7月19日	8月23日	(3日早い)
	5月10日	7月26日	8月30日	(3日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月31日	9月3日	(5日早い)
	5月20日	8月8日	9月12日	(4日早い)
三重23号	4月25日	7月13日	8月15日	(3日早い)
	5月10日	7月20日	8月22日	(3日早い)

※メッシュ農業気象・水稻生育予測システムVer. 2.0による生育予測です。□
田植え後の植え傷み等による生育遅延は考慮されていません。

<乾燥調製>

- ・高温での急激な乾燥は水分ムラが生じやすく、胴割粒の発生が多くなり、食味の低下につながるため、平均の毎時乾減率は0.8%以下となるようにしましょう。
- ・仕上水分は14.5~15.0%を目標とします。粳水分が高い場合や青未熟粒の混入が多い場合には、水分の戻り現象が現れます。粳水分18%程度で一度乾燥を停止し、粳同士の水分差を小さくしたうえで再度乾燥すると品質への影響が少なくなります。
- ・カメムシ類等による着色粒が多い場合は、色彩選別機により等級アップを図りましょう。

<収穫後耕起>

- ・稲わらの腐熟促進、大雨による稲わらの流出防止、漏生粳等の対策のため、収穫後できるだけ早く耕起しましょう。
- ・スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生が多かったほ場では、土壌が乾燥して硬い時期に、低速で土壌を細かく砕くように耕起を行い、貝を物理的に破碎するとともに冬の寒さにさらして殺貝しましょう。